



教育委員会より

「多久から発信!SDGs⑫」

8月号より、市内各義務教育学校での活動を通して、子どもたちが感じたことや思いを紹介していきます。

「水の大切さ」

東原彦舎中央校 4年3組 牛島浩華

水は私にとって、あつて当たり前、使えて当たり前だと思っていました。そうではなく、当たり前ではないことが分かりました。

私たちが生活で使っている水はきれいにされています。その中で特にきれいな水は飲み水です。その飲み水を作っているじょう水場では、げんじょうに水が管理されています。

じょう水場では、川の水を取り入れてゴミを固めるための薬を入れたり、ろかしたり消毒をしたり、いろいろなこうていを経て、水道の水ができます。そこで働く人たちは、24時間交代せいで働いているそうです。

私はこのことを、学校のじょう水場見学で学びました。じょう水場には大がかりなせつがいくつもあり、私たちが飲んでる水はかんたんにできてはいないことを知りました。

子どもの体の75パーセントは水分がしめており、体重の2パーセントの水分がなくなると体調をくずしてしまうそうです。水は人が生きていくためには、なくてはならないものです。その生きていくための安心・安全な水は、じょう水場で、ていねいに作られていることにとっても感動しました。

私は今まで水を当たり前のように使っていました。飲み水を作ってもらっていることに感しやして、水を大切にしていきたいと思ひます。



連載

野の仏ギャラリー⑤

西国三十三観音

東多久町常應寺(大通院)



※写真は三十三所観音のうち十四尊です

西国は東国に対応する言葉で、西国三十三所は近畿及び隣接県にある巡礼地です。この観音霊場を勧請した写しが各地に設置されました。当所では現在、観音堂の周辺や広場にあります。

ここに安置された観音像の内訳は千手観音13体、十二面観音6体、聖(正)観音5体、如意輪観音4体、馬頭観音2体、不空罽索観音1体、準(進)提(瓶)観音1体、不明1体です。確認できる紀年銘は明治四十五年仲春から大正八年仲秋です。施主の住所は當村・平林村・松瀬村・柳瀬村・裏納所村・本納所村・上砥川村・堀江本村・芦刈村・三日月村など多くは近隣の村々です。

なお、第一番如意輪観音方柱台に「石工西川江頭友吉」、第二十九番馬頭観音方柱台に「内砥川石工陣内高太郎」と刻まれています。西川は小城町、内砥川は牛津町にあります。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

◆ 何度でも生まれ変わるよ 何度でも生まれ変わって君に出会うよ
野崎 隆幸

◆ 紫を包める鞘のひらきつつ
菅蒲は今や開かんとする
川浪 信子

◆ 昇る陽を浴びて散歩す 田舎道
素朴な景色 心和みぬ
浦野 嘉恵

◆ 紫陽花のピンク水色 咲き揃い
雨にうたれて楽しく踊る
梶原恵美子

◆ 世界中が自国防衛に核をという
その前の外交 誰も問わない
尾形 節子

◆ 手に受くる螢やさしく光りけり
おおやはな
本村 則子

◆ ほうたるを幼の手より放ちけり
朝風に声を揃へて雨蛙
中嶋 清子

◆ 若き日の 甦り来るソーダ水
富樫 明美

◆ 紫陽花の葉隠れにある海の紺
大石ひろ女

◆ デザートのように食後の糖衣錠
高塚チカ子

◆ 関心が過ぎて勝手に噂する
西山 残月

◆ スマホから指図されて生きてます
松下 修

◆ 回転木馬 尊一氣に回り出す
大谷 和

◆ こんな小さい薬に預ける命
田代まつこ

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

川柳 《多久川柳会 互選》